

5月10日・復活節第5主日 ヨハネ14章1～12節 イエスと密接に結ばれている

今日の福音はヨハネの福音の中で、イエスが最後の晩餐の際に語ったとされる箇所です。ヨハネ福音書の実に三分の一を占める長い説教は、とくに父とイエス、イエスとわたしたちの関係が述べられています。最後の晩餐はイエスの死と復活に深くつながっていますから、イエスの過越がわたしたちと三位一体の神を分かちがたく結ぶ出来事であることを表しているのでしょう。

今日の箇所はよく葬儀ミサで読まれます。「父の家には住むところがたくさんある」というところは天の国の住処が用意されていることを教えていますし、「わたしを通らなければだれも父のもとに行くことはできない」ということばによって、イエスが父のもとに導いてくださる方であることが示されています。しかし、このイエスのみことばは、死後の救いだけでなく、今のわたしたちに告げられていることとして受け止められるべきものです。

イエスは「わたしは道、真理、いのちである」と言われます。「道」は父に向かう道です。わたしたちはイエスの道を通して父のもとに行きます。しかし、道は向かうためだけにあるではありません。道を通してこちらに来る人もいます。それはイエスです。イエスは死と復活によって天の門を開いてくださいました。そこへ続く道を通してイエスのほうからわたしたちのところに来てくださるのです。

いま、わたしたちはミサにも行けず、イエスと離れて暮らしているように思うかもしれません。しかし、イエスのほうがわたしたちのところに来てくださるのです。そして、真理を告げ、いのちを与えてくださいます。トマスが「どうして道を知ることができるでしょうか」と尋ね、フィリポが「御父をお示してください」と願う前からイエスはご自分の道を教え、父を示してくださっていたように、わたしたちもイエスがご自分の道を通してすでに一緒にいてくださるということを知るのでした。

「わたしを信じる者はもっと大きな業を行うようになる」とイエスは言われます。「どうしてイエスより大きな業を？」と思うかもしれませんが、わたしのところに来てくださるイエスがともにいて働いてくださるとき、わたしたちはイエスが始められた神の国を実現していくことができます。

わたしたちは幸せです。このような苦しいときにもイエスがともにいてくださることを知っているのですから。この幸せのうちに生活し、苦しむ人や助けを必要としている人のために祈りを捧げ、イエスがすべての人の主であることを忘れないこと。これが、イエスがわたしたちに与えられる業です。

現在、感染拡大防止のために三密を避けるように言われています。けれどもわたしたちは、いつもイエスと密接に結ばれているのです。(柳本神父)